

マレーシア派遣

2年3組 阿久澤 千晶
2年6組 宮川 わかな



私たちは、今後の赤十字活動に生かすため、そして「国際理解・親善」を図るために、北関東三県の日本メンバーと共にマレーシアへ派遣されました。そこで学んできたことを紹介します。

マレーシア赤新月社を訪問した際、職員の方やユースの皆さんが歓迎してくれました。活動紹介をして頂く中で、日本との交流があったことに驚きました。また、ユースの皆さんの活動の中で「傷メイク」がありました。これは、実際に何かが起こった時に訓練通りにするためだそうです。

赤新月



現地の方との交流

現地の方と話す際、正直私は自分の英語力では相手に伝わらないと思っていましたが、むしろの生徒達はうなずきながら笑顔で聞いてくれました。会話をしながら、態度や表情は大事なのだと改めて感じました。また、難しい文法や表現を使わなくても話すことができ、通じた時の喜びは何事にも代え難かったです。

学校を訪問して

たくさんの方々が共存しており、それぞれの民族衣装で歓迎してくださったので、マレーシアが多民族国家であることを改めて実感しました。施設内にはイスラム教の方の為に祈り室があり、お祈りの時間、その他の人は静かにしていなければなりません。女性という暗黙のルールがあるそうです。女性が頭に身につけるスカーフはファッションの一環にもなっているそうです。

